



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番
96.3.28 No. 4367

3.24千葉春闘集会開催

はねかえそう
大失業時代
とりもどそう
団結!!

三月二十四日午後一時より船橋市中央公民館で「はねかえそう大失業時代、とりもどそう団結、たたかおう春闘集会」が100名の結集で開催された。
集会は、初めに集会実行委員長のあいさつのち、来賓あいさつとして、水野勝浦市議より、岩井章氏が別掲のように講演をおこなった。その後関西合同労組から阪神大震災被災地の状況と合同労組を始めとする被災地労働者の闘いが報告された。国鉄千葉の労働者による正念場をむかえた国鉄闘争の報告のち、千葉沖縄県人会の方より四月一日をむかえる沖縄現地の闘いが報告された。集会実行委員会の問題提起のち、教組、全通、自治労、鉄鋼の労働者が職場と組合をめぐる報告を行なった。また会場の参加者から3名の労働者がそれぞれ発言し、最後に田中勤労千葉書記長がまとめを行い集会は終了した。

春闘の初心をどう生かすか 〜岩井章氏講演要旨〜

私が高等小学校を出て国鉄に就職したころは機関区で月給三十円になりました。その時といまでも共通するのは生活を良くすることが人間生活の基礎にあるということ。生活とは賃金のことだけではありません。これからは特に社会保障の改悪が大問題になるでしょう。昨年のフランスのゼネストは年金改悪が問題となりました。労働運動は第一に労働者の生活のことが問題になります。その中に春闘があります。一九五五年を思い出すと、皆で立ち上ること、弱い部分をカバするのが春闘でした。それまでは夏や秋の賃上げもありました、分散をひとつにしたのは良かったことです。そして四十何年つづいてきました。長くなると良くない面もあります。連合になって闘争ではなくなりました。春闘の初心をどう生かすかこれが課題です。
第一が生活とすると、第二に平和と民主主義、第三が権利、第四に環境の問題があげられます。平和と民主主義という日本軍国主義のことがあげられますが、軍国主義とは軍隊が質的に強められ、政治の前面に出てきて政治を動かすこと、軍全体がひとつの政治集団となって国民の生活に支配介入してくることです。六十年安保のまえには、警察官職務執行法改悪が出され警察が家庭に介入しようとした。平和と民主主義を口にすることは安保の問題がつけねにあった。これからもそうした認識をもってもらいたい。第三に権利の問題があります。労働者、女性、部落問題、外国人、いろいろな権利の問題があります。今の春闘はゼネカネでせめてもダメでしょう。満足はしていないが生命をかけるほどでもない。もっと別の要求があるはず。第四に環境の問題があります。空気、水、土地、自然環境が重要な要素になります。こうした四つの事柄に対して何を問題にするべきか、それは労働者の団結です。
最近の住専の問題で言うところ、本主義金融システムの破綻だということ、こうした矛盾はこれから出てくるでしょう。国鉄も分割したことがまちがえです、でもそれをやらざるを得なかった。赤字を他におしつける算段でしかない。労働運動の分析の角度として、資本主義が行きづまり矛盾が蓄積され、労働者農民におしつける。それでこのこえられない時どうするか。戦争を行なう訳です。アジアの収奪で日本の矛盾をカバしようとする、これは歴史的経験があります。こうした資本主義のあり方に絶えず警告をしていくこと、これが大事です。その上で労働運動のポイント、労働者が職場でどうなっているか、職場での討論や団結が不十分だから闘いを地域社会に広げる必要があります。地域共闘は労働者、農民、中小などいろいろあります。総評のとき地区労は二百あった、地区労働部隊の再構築、活動できる地域の集まりが必要です。連合は世の中を良くしようという観点は無い。連合の地域活動にオルグ活動はない、われわれがどう強化するか、それが課題です。

すべての軍用地に花を
基地も安保もいらない
3・31集会
—沖縄反戦地主とともに—
ちば 11:16 快

3.29春闘
二波対
新小岩、佐倉
換桌 13時~